

きほく通信

第21号

2011年
1月17日
発行

那賀地方
患者家族会
きほく

【会長】神森和子
紀の川市中三谷

【相談室】0736(77)5161
【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371
森田方TEL0736(75)4413

「華岡青洲」名で100万円寄付

「NHKニュース」
漫画「タイガーマスク」



の主人公などを名乗る人物からの贈り物が相次ぐ中、紀の川市では、地元出身の江戸時代の外科医、「華岡青洲」を名乗る人物から現金100万円が難病患者の会に寄付されました。

紀の川市によりますと、14日午前10時30分ごろ、市の出先機関、那賀総合センターに「難病担当課」に宛てて封筒が郵便で届けられました。中には地元出身の江戸時代の外科医、「華岡青洲」の名前で「難病の方の役に立っていただきたい。お金を難病患者の会に寄付してください」と書かれた手紙と、現金100万円が入っていました。また、手紙には、難病で子どもを失った紀の川市難病患者家族会の事務局長、森田良恒さんが執筆した本を病院で読んで共感を覚えたと書かれていたということ。森田良恒さんは「難病患者のことを考えてくれる人がいることをうれしく思うとともに、寄付された額に驚いています。大切につかわせていただきたいと思います。タイガーマスクの主人公を名乗る寄付が相次いでいることで、寄付しやすい環境になっていくのではないかと思います。この流れが続いて欲しい」と話しています。

「毎日新聞」

14日午前10時半ごろ、和歌山県紀の川市名手市場の那賀総合センターに、現金100万円の入った封筒が郵便で届いた。「『田舎坊主の愛別離苦』を読んで共感しました。難病の方の役に立ててください」とし、同市が生んだ医聖・華岡青洲の名が書かれた文書が同封されていた。

同書は市難病患者家族会事務局長の森田良恒さん(59)の著書。次女を胆道閉鎖症で5歳で亡くした経験を通し気付いた命の大切さを書いたという。市は同日、家族会に封筒を届けた。森田さんは「難病患者の家族は経済的にも厳しく、ありがたい気持ちでいっぱいです。相談して有効に使わせていただきたい」と話した。

「読売新聞」

全国で児童養護施設などへ匿名での寄付が相次ぐ中、紀の川市に14日、全身麻酔による乳がん摘出手術に世界で初めて成功した「華岡青洲」を名乗る人物から「難病患者のために」として100万円が寄せられた。紀の川市障害福祉課によると、14日、同市の那賀総合センターに、手紙と100万円が入った封筒が届いた。手紙は、紀の川市の住職、森田良恒さん(59)が胆道閉鎖症で亡くなった子どものことをつづった「田舎坊主の愛別離苦」を読んだとし、「自分の人生と重なり共感を覚えました。難病の方の役に立てていただきたいので、お金を難病患者の会へ寄付してください。華岡青洲」と記されていた。

同市はこの日、森田さんが事務局長を務める同市難

病患者家族会に寄付金を届けた。森田さんは、「患者のために生きることを買った青洲を名乗る方から寄付があったのは、本当にありがたい」と感謝していた。

「朝日新聞」

紀の川市の那賀総合センターに14日、封筒に入った現金100万円が郵送されてきた。同封された手紙には「華岡青洲」の名が、青洲は紀の川市出身の江戸時代の医師で、世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術に成功したこと知られる。

手紙には、紀の川市難病患者家族会の森田良恒事務局長(59)の著書「田舎坊主の愛別離苦」にある病院で読んで「自分の人生と重なり共感を覚えました」と手書きでつづられ、現金を難病患者の会へ寄付するよう求めていた。

市はさっそく現金を家族会へ届けた。森田事務局長は取材に「びびくりでありがたい話。使い道は会員で話していきたいが、財政的に厳しい会なので運営資金になると思う」と話した。

ご意見をお寄せ下さい

今回の寄付には大変驚きました。そして難病患者・家族会にご高額の寄付を下さることに、ご奇な方が居られること、このお金の使い方には大きな責任感をもつて、しかも有効的な活用方法を考えなければなりません。

つきましては、皆さま方からご意見をお寄せいただき、参考にさせていただきます。よろしく願います。

<事務局>

平成22年度 障害福祉地域啓発事業

みんなであいふエスティバル

平成23年1月16日

雪が舞う厳しい寒さの中、岩出市総合保健福祉センター（あいあいセンター）において、障害者の社会参加の促進を図るため、障害のある人となない人のお互いの理解と交流を深めることを目的として、約400名が参加して「みんなであいふエスティバル」が開催されました。

今回は記念講演などではなく、地域の手話コーラス、手話サークル、共同作業所、患者会、支援学校などが歌、踊り、芝居、手話劇などを披露するとともに、それぞれがおかれた環境のなかで感じたことや体験談などが発表されました。

また社会就労センター、作業所、福祉センターがさおり織り作品を展示したり、体験コーナーでは輪投げ、カンパツジつくり、バーチャルハルシネーション（統合失調症の幻覚疑似体験）などの体験をすることができました。

なおエントランスの各ブースでは、野菜、パン、ハンバーガー、ポン菓子、豚汁、コーヒーなどが販売され、多くの参加者で賑わいました。

（写真上は手話コーラス合唱）



（左の写真はステージとブースのようす）

きほくブースでは神森会長さん、田中さん、藤方さん、ボランティアの赤田さん、事務局2名が、皆さんから提供されたあったかソックス、ふじりんご、手作りタワシ、タオル、絵はがき、本などが販売されました。神森さんから提供していただいたふじりんごや田中さん手作りの可愛いタオルはオープンとともにまたたく間に売り切れました。この日の売上は22350円でした。

国会請願署名の締め切りが近づいてきました

昨年お送りしました国会請願署名用紙の締め切りが近づいてきました。すでに返送いただいている方も多くあります。また募金につきましてもたくさん寄せられています。皆さま方のご協力に感謝致します。

＜平成23年1月17日現在の募金状況＞

署名募金(17名の会員扱い): 31, 200円

人権フェスタ募金(岡崎真佐美さん扱い): 40, 600円

※署名につきましては現在集計中です。引き続きご協力お願いします。なお、きほくへの締切は2011年2月10日(木)です。

＜署名用紙送付先＞

〒649-6612 和歌山県紀の川市北涌371番地
きほく事務局 森田良恒